

# 戦争も核兵器もない世界のために

## 沖縄に学び、国民全体のたたかいにしよう

「婦民新聞」も本号をもって今年の最終号となります。ロシアのウクライナ侵略に対し、世界の国々は「国連憲章違反の侵略戦争やめよ」、「核兵器の廃絶を」の大きな流れをつくりました。国内外で核兵器廃絶運動などの先頭に立ってきた原水爆禁止日本協議会の高草木博代表理事に、一年を振り返って見えてくる、来年の展望について話を聞きました。

### ロシアのウクライナ 侵略に対する動き

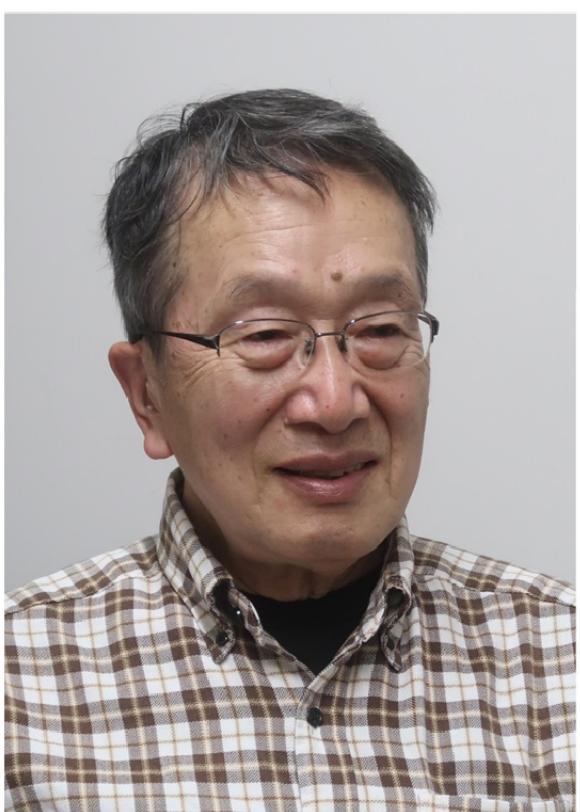
今年の大きな出来事は、ロシアのウクライナ侵略です。ロシアという核大国、国連安全保障理事会の常任理事国である国が、国連憲章違反の戦争を始めたことで、ヨーロッパでは中立だったスウェーデン、フィンランドが「安全保障」を理由にNATO加盟へと動きました。岸田首相は「乌克兰は明日の東アジア」と脅威論で煽り、改憲派が参院選挙で三分の二の議席を獲得。憲法改定、大軍拡への道を進めています。

しかし大事なことは、それに負けない反撃の力が国際的にも大きかったことです。国連安理会がロシアの拒否権で機能しない中、直ちに開かれた国連総会がその役割を果たし、「国連憲章を守れ。加盟国の主権と領土保全を守り紛争の平和的解決を」とロシアの侵略を非

して、「核には核」に反対して、禁止条約への結集が行われました。「核抑止力を否定し、安全を脅かすものこそ核兵器だと明確に宣言しました。

流れを明確にしました。その会議でも原水協を代表して日本共産党的笠井亮さんが「核抑止力論に立てば、核兵器廃絶も不拡散も成り立たない。

めることが必要です。また戦争のもとにある核兵器の廃絶は差し迫った課題です。気候変動やコロナ、食糧難の問題があるときに資源も人も割く膨



原水爆禁止日本協議会代表理事

高草木 博さん

### ロシアのウクライナ 難する決議を百九十三か国中、百四十一か国の賛成で採択しました。さらに国際人道法順守の決議も採択し、十月には、ロ

シアによるウクライナ四州併合も百四十二対五の大差で非難しました。

NPT再検討会議の最終文書はロシアの反対で採択されなかつたもの、原水禁世界大会にも参加しているたくさんの国々の政府代表が、「最終文書」での合意の広がりを歓迎しながら、核廃絶に向けて動かすためにさらに大きな力が必要だと発言し、国際世論の

ロシアの戦争をやめさせ、核兵器を使わせない、主権と領土保全を守らせる、そのための外交を、国際世論を背景に進

んでいます。しかし真の安全保障や、軍拡の差し迫った危険な動きはまだまだ知られていません。

安倍政権は、集団的自衛権は違憲ではないが行使はしない、という政府見解を閣議一つで解釈を変更し、安保法制もつくりました。国連憲章五十一条は、明白に「武力攻撃が発生した」場合、個別的、集団的な自衛の権利を発動できるというものが、今やとうとしているのは、相手の侵略は関係ない先制攻撃です。大量の地対地、地対空ミサイルやトマホークの配備によりアメリカの先制攻撃と連動する軍事力を準備しているのです。国民がアベノミクスの失敗やコロナなどで苦しんでいるとき、軍事費をGDP比1%にするなどとどんでもないことです。それが、相手側にどういう反応を引き起こします。

根本的に態度を変えるべき」と発言し、「核兵器のない世界」を実現するこ

とを訴えました。また、日本政

府の動きと関連して、「理性と外交」による紛争の平和解決こそ、日本憲法が示す道であることを訴えました。

草の根の活動として私たちの意思を国際的な場で伝え、結果を出してきたことは確かです。

世論調査では改憲を考え進めようとしています。が、国民の支持を得られないとは思えません。

軍拡、大増税で戦争をする国づくりを一挙に推しあげることが大事です。

岸田政権は、北朝鮮、オール沖縄のたたかいでは、戦争で被ったあの犠牲を二度と繰り返してはならないという譲れない一点で共闘して、辺野古の基地建設反対を貫き、平和な沖縄を訴え、玉城デニーさんが勝利しました。台湾有事を「実際に先島諸島にミサイル配備が進めば、戦争になつたとき、まず県民が犠牲になります。さらに佐世保や横須賀など日本全体が標的になるでしょう。日本国民全体のたたかいにしなければなりません。沖縄のたたかいがその道を示してくれます。

核兵器の全面禁止を現実的目標として掲げ続け、被爆の実相を被爆者とともに国民に伝え、核兵器禁止条約に参加する日本を実現をともに決断しなければなりません。

若い人には特にいねいに話して輪を広げていくよう取り組みたいと思います。